

平成15年度 社会科研究構想図

社会科における子どもの実態

(自主性)

・授業を通して地域の様子に興味をもち、地域の活動や行事に進んで参加する姿が増えてきた。

(創造性)

・調査活動を意欲的に行い、資料から必要な事象の意味を的確に読み取り、自分の意見として表現していく姿が増えてきた。

(社会性)

・仲間の考えを参考にしながら、ともに課題追究し、自らの考えをより確かなものにしていく姿が増えてきた。

学校の教育目標

心ゆたかに たくましく生きる子

よく考える頭 (創造性)

進んで働く手足 (自主性)

人もものも大切にできる心 (社会性)

社会科において願う子どもの姿

(自主性)

・地域の様子や歴史に深く興味関心をもち、疑問から課題を設定し、主体的に追究していくとする子ども

(創造性)

・調べ学習を通して、資料等から社会的事象の意味を的確に読み取り、生活経験や既習内容を交えながら、自分の考えとして分かりやすく表現していくことができる子ども

(社会性)

・仲間の考えを認め、参考にしながら多面的に問題追究し、自己の考えを深め、共に高まりあいながら学習内容を理解していくことができる子ども

研究主題

感動ある授業を求めて

～個に応じたきめ細かな指導で、学ぶ意欲、

学び方、学び合いを育てることを通して～

社会科で目指す授業

身の回りの事象や人々の生き方について問題意識をもって追究し、個々の考えを高め合いながら、社会的事象の意味をとらえることができる授業

具体的な手だて

学びたいという意欲(自主性)を育てるために	その子なりの学び方(創造性)を育てるために	仲間との学び合い(社会性)を育てるために
<p>1人1人の子どもが「こんな資料があれば、解決できるな。」「楽しかった。よく分かった。」と思えるようにする。</p>	<p>1人1人の子どもが「2つの資料や、前の資料から課題解決できたぞ。」と思えるようにする。</p>	<p>1人1人の子どもが「友達の考えはとても参考になった。聞いてよかった。」と思えるようにする。</p>
<p>【研究内容1】 一人一人の子どもが、目的意識を持ち続けることができる、評価の在り方。</p>	<p>【研究内容2】 一人一人の子どもが、自分なりの方法で課題を解決することができる、個に応じた指導・援助の在り方。</p>	<p>【研究内容3】 一人一人の子どもが、自分の見方や考え方、技能を高めることができる、学習集団の在り方。</p>
<p>○一人一人の子どもの意欲につながる自己評価を具体化する。 ○一人一人の子どもの特性をつかむ教師の評価を具体化する。</p>	<p>○一人一人の子どもの特性に応じた指導・援助を具体化する。 ○一人一人の子どものつまずきに応じた指導・援助を具体化する。</p>	<p>○一人一人の子どもの目的に応じた小グループづくりを具体化する。 ○一人一人の子どもの見方や考え方、技能が高まる学び合いの方法を具体化する。</p>
<p>学び方に関わる自己評価 1時間の終末や家庭で、本時の学習について振り返り、学ぶ姿勢や学び方について自己評価する。(年間における初期段階) また、帰りの会の振り返りの時間に自分の学習姿勢についての振り返りを行う。 本時の評価規準に関わる自己評価 1時間の過程や終末で、本時の学習について振り返り、評価規準をもとにした4観点について自己評価する。(年間における中・後期段階) 単元における自己評価 単元を通しての学習の様子や感想を書き、自己を振り返る。(児童の授業評価の項目も取り入れる) 自己評価をもとにした教師側の評価 自己評価(評価カード等)から、児童の実態や特性を把握し、次時に生かす。</p>	<p>評価規準の位置付け 前単元に記入した児童の自己評価をもとに、個々の学習状況や進歩の様子を生かして学習を進めていけるような評価規準を指導計画に位置付ける。 子どもの予想に応じた解決資料の複数提示 課題解決の見通しが持てる資料を複数提示し、児童が、個々の興味関心や、特性に応じた資料を選択して追究できるようにする。 見通しを持っていない子どもへの指導援助 資料をもとに追究が始まったら、前時までの授業の様子や自己評価より、課題解決の見通しの自信がもてない子を事前に把握し、一番に指導・援助する。 課題追究をさらに深める子への指導・援助 資料を多面的に見たり、既習内容や体験等から総合的に考えたりするよう指導・援助する。</p>	<p>課題追究時における学び合いの工夫 課題追究が早く終わった子同士で、ペア・または数人の少グループを作り、考えを交流し合わせるなどして、子どもが仲間の意見と比べながら、自分の考えを確実にもったり、高めたりすることができるようにする。 意見交流時の形態の工夫 意見交流の時にお互い向き合ったり、子ども同士で指名させたりするなど、子どもの実態に合わせて、仲間の意見を認め、その意見を自分のものにする交流の仕方を考える。 意見が広まりやすい発言の仕方の指導 「資料 から～」「さんの意見を聞いて～」「さんの意見について他に意見はありませんか」等、発言の仕方を具体的に指導する。</p>
<p>社会科の授業において大切にしていること</p>		
<p>○資料提示の工夫 ・驚き、疑問、矛盾など、五感に訴える資料提示を行う。 ○主体的な学習の重視 ・作業的、体験的、問題解決的な学習を多く取り入れる。 地元の人物などの地域教材開発</p>	<p>○教室掲示の工夫 ・前時までの資料を教室掲示し、子どもが多面的に課題解決していけるようにする。 学習形態の工夫 ・単元に応じて一斉、グループ別、個別学習を取り入れる。</p>	<p>板書の工夫 ・発言内容を、資料別・内容別にしてポイントをおさえながら、子どもに分かりやすく明示する。 子どもへの言葉かけ ・子どもの発言内容を認め励ます。</p>

